

新型コロナウイルス感染症の複合死因分析：2020～22年

An analysis of COVID-19 by multiple causes of death: 2020-2022

別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）

Motomi Beppu (National Institute of Population and Social Security Research)

beppu-motomi@ipss.go.jp

2019年末に確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、わずか数か月で世界規模での大流行へ至った。厚生労働省「人口動態統計」によれば、日本でも2023年10月までに10万人以上がCOVID-19によって死亡している。

厚生労働省『人口動態統計』では、WHOが掲げている原死因（underlying cause of death）の考え方を採用している。この原死因について、WHOは1967年の総会において「直接に死亡を引き起こした一連の事象の起因となった疾病または損傷、もしくは致命傷を負わせた事故または暴力の状況」と定義した（厚生労働省2018）。死因統計においては、上記の死亡診断書等に記載された諸死因から、原死因の考え方にに基づき原則としてWHOが定める方法により原死因を一つに特定している（厚生労働省2018, 2022）。

死亡原因の根源を探る試みはそれ自体、大変重要であることは論を待たない。しかし他方において、現代のいわゆる生活習慣病が大勢となり、一人がいくつもの疾病を同時に罹患していることが珍しくなくなっている社会においては、死因を一つに限定することで疾病間の関連などといった逆に見えなくなる情報も存在する。例えば糖尿病は合併症を引き起こすことが知られているが、原死因からでは、その人がどういった合併症を併発したのかは分からなくなる。2019年末からCOVID-19のパンデミックが世界規模で発生し、2020年から日本でもCOVID-19による死亡が発生した。この疾病については新しいこともあってまだ不明な点が多い。また、例えば糖尿病等といった基礎疾患を持っている人の死亡が多いかについて、原死因による分析からではわからない。

さて、日本の死亡統計である『人口動態統計』は、自治体に提出される死亡届を元に調査票が作成される。死亡届の右側は死亡診断書もしくは死体検案書となっており、医師が死因など死亡時の状況について記入する。この段階では死因は幾つか記載されるようになっており、この情報を用いれば複数の死因の関係を見ることが可能となる。

そこで、原死因を決定する以前の死亡診断書データ（死亡個票データ）を用いた分析の報告を行う。別府・篠原（2022a）、別府・篠原（2022b）、別府・篠原（2023）では、COVID-19について複合死因の観点から分析を試みており、本報告では2022年までのデータも加え、社会的にも影響・注目の大きなCOVID-19について複合死因の分析を行う。

記載される死因欄をみると、2020～2022年の間、多くの場合でCOVID-19はI欄アに記載されており、その場合の原死因はほとんどがCOVID-19となっていた。その約半数にはII欄に何らかの疾病が記載されていたが、II欄では糖尿病や慢性腎臓病が多く記載されており、

心不全や脳梗塞といった循環器系疾患も上位にあった。

COVID-19 を死因に含む死亡についてその記載欄をみると、I 欄アへの記載が圧倒的に多く、呼吸器系の疾患を直接死因として COVID-19 を I 欄イや II 欄へ記載するケースが一定程度見られた。また、COVID-19 は I 欄ア～エに記載がある場合には原死因となりやすいが、II 欄にある場合には他の死因が原死因になりやすかった。

原死因が COVID-19 の場合について、死亡が多かった死因を順にみると、I 欄アでは最多が肺炎、その他の呼吸器系の疾患、誤嚥性肺炎と呼吸器系の疾患が続き、当初「新型肺炎」と呼ばれていたことと符合する。I 欄イでも肺炎、誤嚥性肺炎が多い。

また I 欄アに COVID-19 の記載がある場合をみると、I 欄アでは COVID-19 以外では肺炎の記載が若干みられるが、I 欄イ～I 欄エへの死因の記載は少なく、II 欄に、糖尿病や心不全、慢性腎臓病といった死因が記載されていた。

より詳細な分析は、当日にお示しする予定である。

参考文献：

- 別府志海・篠原恵美子（2022a）「新型コロナウイルス感染症の複合死因分析：2020年」，厚生労働科学研究費補助金『人口の健康・疾病構造の変化にともなう複合死因の分析手法の開発とその妥当性の評価のための研究』令和3年度報告書，pp.23～36.
- 別府志海・篠原恵美子（2022b）「新型コロナウイルス感染症による死亡動向と複合死因分析：2020年」，『人口問題研究』第78巻第4号，pp.477～492.
- 別府志海・篠原恵美子（2023）「新型コロナウイルス感染症の複合死因分析：2020～21年」，厚生労働科学研究費補助金『人口の健康・疾病構造の変化にともなう複合死因の分析手法の開発とその妥当性の評価のための研究』令和4年度報告書，pp.147～156.